

- 1 日時 平成24年11月〇日 (〇)
- 2 学年・組 第1学年〇組
- 3 単元名 「ひきざん」
- 4 単元の目標

繰り下がりのある2位数－1位数の計算の仕方を考え理解し、確実にできるようにするとともに、それを用いることができるようにする。

5 単元の評価規準

算数への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての 技能	数量や図形についての 知識・理解
・既習の減法計算や数の構成を基に、繰り下がりのある2位数－1位数の計算の仕方を考えようとしている。	・繰り下がりのある2位数－1位数の計算の仕方を考え、操作や言葉などを用いて表現したり工夫したりすることができる。	・繰り下がりのある2位数－1位数の計算が確実にできる。	・10のまとまりに着目することで、繰り下がりのある2位数－1位数の計算ができることを理解する。

6 単元について

本単元では、10までの数の合成・分解の学習（「いくつといくつ」）を生かし、算数ブロックを用いた活動などを通して繰り下がりのある減法の計算の仕方を考え、それらの計算が確実にできるようにすることを主なねらいとしている。このとき、「10いくつ」を「10といくつ」ととらえることで10のまとまりを意識させ、筋道を立てて計算の仕方を説明できるようにすることが大切である。

本学級の児童は、これまでに「いくつといくつ」の学習で10までの数を分解的にとらえたり合成的にとらえたりする学習を行い、「10よりおおきいかず」では、「13は10のまとまりが1こと、ばらが3こ」ととらえ、「10の（まとまりの）へや」「ばらのへや」の2位数の構成と関連させる学習を行っている。また、「のこりはいくつ ちがいはいくつ」や「10よりおおきいかず」の学習において、⑩のまとまりをばらにして行う簡単な減法（例⑩－3）や、2位数の端数から引く簡単な減法計算（例15－3）ができるようになってきている。しかし、「いくつといくつ」で学んだ分解の意味について理解はできていないものの、瞬時に答えることができるまで習熟できていない児童もいる。

また、これまで児童は自分の考えを操作活動や言葉で表現するだけではなく、絵や、○や□を用いた図、文章で表すこともできるようになってきており、さらに自他の考えのよさを見つけたり、より分かりやすく筋道を立てて考えを進めたりしようとする態度も身に付きつつある。

本単元の繰り下がりのある2位数－1位数は、今後の学習の基礎となる重要な内容であり、算数ブロックによる計算の仕方の理解とともに、計算カードを使った練習やゲーム、継続的な指導を通して、計算の習熟を図るようにしたい。この学習を通して、計算の仕方を考え、理解を深めることで、第2学年で取り扱う2位数－2位数についての減法の計算の仕方を考えることにつなげていきたい。

そこでまず、本時では、既習の繰り下がりのない減法との違いに気づかせ、本時の学習課題を明確にかませる。そして、実際にブロックを操作して計算の仕方を考えさせ、その計算の仕方を言葉、図、式などに表現し、説明させていく。さらに、ペアや全体での交流の中で、他の計算の仕方を読み取ったり、それぞれの計算の仕方のよさを見つけたりすることにより、次時からの学習に意欲的に取り組めるようにしていきたい。

7 指導と評価の計画（12時間）

次	時	ねらい	評価の観点				
			関	考	技	知	
1	1	既習の減法計算や数の構成を基に、繰り下がりのある2位数－1位数の計算の仕方を考え、表現することができる。（本時）	○	◎			既習の加減計算や数の構成を基に13－9などの計算の仕方を考え、操作や言葉などを用いて表現することができる。
	2	繰り下がりのある2位数－1位数の計算で、被減数を分解して計算する方法（減加法）を理解する。	○	◎			14－8などの計算の仕方を考え、操作や言葉などを用いて説明することができる。
	3	前時までの学習をふまえ、繰り下がりのある2位数－1位数の計算で、被減数を分解して計算する方法（減加法）の理解を確実にする。			◎	○	減加法による計算が確実にできる。
	4				○	◎	減数が8～5の場合でも、10のまとまりから1位数をひけばよいことを理解している。
	5				◎	○	減加法による計算が確実にできる。
2	1	繰り下がりのある2位数－1位数の計算で、減法を分解して計算する方法（減々法）があることを知り、計算の仕方についての理解を深める。		◎		○	被減数や減数の大きさに関係なく、被減数を10のまとまりといくつに分けて計算の仕方を考え、言葉やブロック操作などによって説明している。
	2			○		◎	繰り下がりのある2位数－1位数の計算は、被減数を10のまとまりといくつに分けて考えればよいことを理解している。
3	1～5	減法の計算能力を伸ばす。			◎		繰り下がりのある2位数－1位数の計算が確実にできる。

8 本時の目標

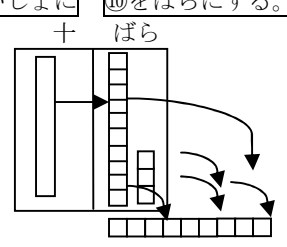
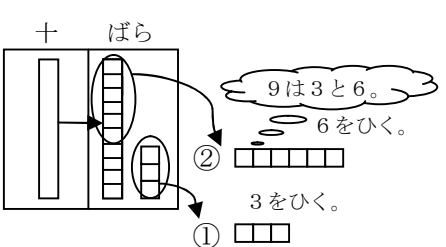
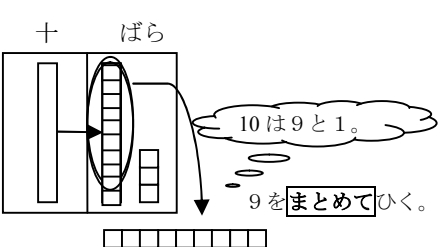
・既習の減法計算や数の構成を基に、繰り下がりのある2位数－1位数の計算の仕方を考え表現することができる。

9 本時の評価

到達度	具体的評価規準	判断の目安
十分満足できる状況	○13－9などの計算の仕方を考え、操作や言葉、図、絵などを用いて筋道を立てて説明することができる。	○算数ブロックで操作したことを、自分なりの方法で、筋道を立てて説明することができる。
概ね満足できる状況	○13－9などの計算の仕方を考え、算数ブロックを操作し説明することができる。	○算数ブロックで操作したことを、自分なりの方法で説明することができる。
努力を要する状況の児童への手だての例	○思考や表現の手立ての一つとして、算数ブロックの絵をもとに考えや表現を進められるようにする。 ○既習の10をばらにしてから引くことを意識させるようにする。	

<p>4 集団解決をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートやブロックを使って説明をする。 既習である「10のまとまりの部屋」「ばらの部屋」という記数法と数の構成や、「10のまとまりをばらにする」、「10の補数」等の様々な考え方を共有する。 <p>5 適用問題を解く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 12 - 9を計算する。 <p>6 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習をふりかえって、考えたこと（自分が思いつかなかった考えや説明の仕方、友達のよいところ、発表を聞いて気付いたことなど）をワークシートに書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> C1~C4 についての考え方を言葉やブロック、図、式で表現する。 自分なりの方法や友達の意見を聞いて理解した方法などを使って、ブロック操作を行う。 〇〇さんの計算の仕方がわかりやすかったです。 10のまとまりからひく計算の仕方が簡単でした。 いくつといくつの数を覚えようと思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ブロックと、図、言葉、式を対応させて、関連を図らせる。 教材提示装置を活用して、全体に共有できるようにする。 <p>努力を要する状況となるおそれのある児童</p> <ul style="list-style-type: none"> 板書をもとに、自分にとって分かりやすい方法を選ばせ、操作させる。 計算の仕方についてわかったことを書くように指示する。
--	--	--

1.1 板書計画

<p>めあて 13-9のけいさんのしかたをかんがえよう。</p> <p>もんだい みんなでひろったどんぐりが13こあります。どんぐりごまに、9こつかいました。どんぐりは<u>なん</u>のこっているでしょうか。</p>	<p>挿 絵</p>	<p>まとめ</p> <p>10のまとまりのへやからばらのへやにもどして、けいさんする。</p>
<p>しき $13 - 9 = 4$</p> <p>ばらはばらからひく。 3-9はできない。</p>	<p>$12 - 9 = 3$</p>	
<p>さいしよに ⑩をばらにする。</p>  <p>1こずつひく。</p>	 <p>① 3からひく。 $3 - 3 = 0$</p> <p>② 10のばらから、のこりをひく。 $10 - 6 = 4$</p>	 <p>① 10のばらから9をひく。 $10 - 9 = 1$</p> <p>② 1と3で4。 $1 + 3 = 4$</p>